

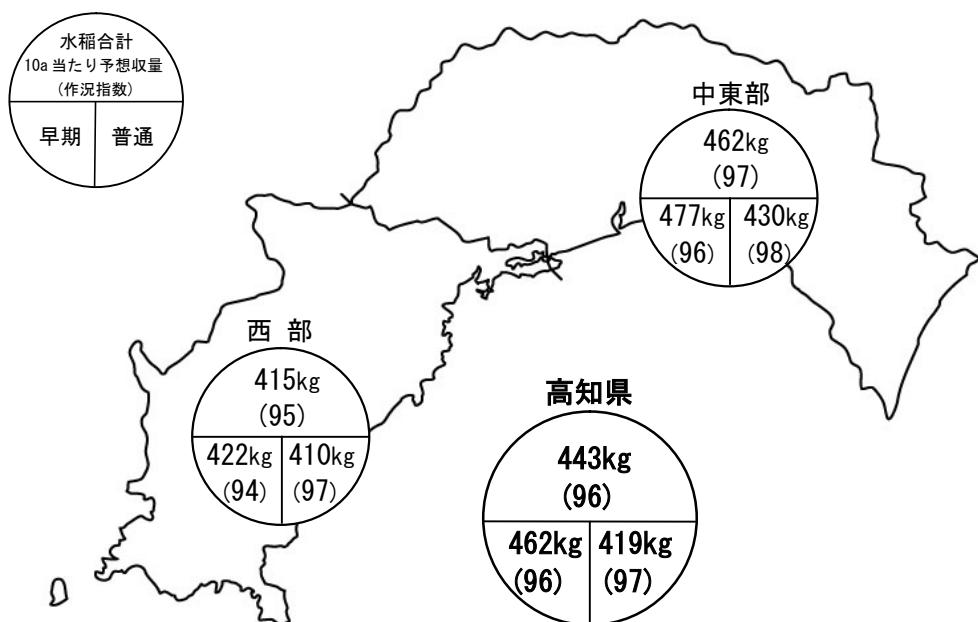
平成27年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (高知県)

— 水稻の10a当たり予想収量は443kg（作況指数96）の見込み —

【調査結果の概要】

- 平成27年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は1万3,100haで、うち主食用作付見込面積は1万1,900haが見込まれます。
- 9月15日現在における水稻の作柄は、日照不足等の影響により、やや不良が見込まれます。
10a当たり予想収量は443kg（作況指数96）が見込まれます。作期別には、早期栽培は462kg（作況指数96）、普通栽培は419kg（作況指数97）が見込まれます。
- 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は5万2,700tが見込まれます。

図1 10a当たり予想収量（作況指数）



【調査結果】

1 作付面積

平成27年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は1万3,100haで、前年産に比べて、200haの減少が見込まれます。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた主食用作付見込面積は1万1,900haで、前年産に比べて800haの減少が見込まれます。

2 作柄概況

(1) 早期栽培

田植期は、苗の生育がおおむね順調であったことから、最盛期は4月11日となり、平年より1日早くなりました。

生育は、4月上旬から中旬にかけて日照時間は少ないものの、その後4月下旬から5月下旬にかけて高温・多照で経過したことから、おおむね順調でした。

出穂期は、高温・多照で経過し生育が早くなつたことから、最盛期は7月1日となり、平年より7日早くなりました。

全もみ数は、穂数、1穂当たりもみ数とも平年並みであったことから、平年並みとなりました。

登熟は、日照不足や穗いもちの発生などによりやや不良となりました。

被害は、日照不足による登熟への影響やいもち病の発生などから、総じてやや多くなりました。

これらのことから、10a当たり収量は462kg、作況指数は「96」のやや不良となりました。

地帯別には、西部では、全もみ数がやや少なくなったことに加え、日照不足やいもち病の被害が多くなつたことなどから、作況指数は「94」の不良となりました。

(2) 普通栽培

田植期は、育苗期間が高温・多照で経過し苗の生育が早くなつたことから、最盛期は5月25日となり、平年より3日早くなりました。

生育は、6月上旬から7月中旬にかけて低温・日照不足で経過したことから、分げつが抑制され、茎数がやや少なくなりました。

出穂最盛期は、平年より1日早い8月19日となりました。

全もみ数は、穂数がやや少なくなったものの、幼穂形成期の天候に恵まれ1穂当たりもみ数が多くなつたことから、多くなりました。

登熟は、全もみ数が多いことに加え、登熟期となる8月下旬以降が日照不足で経過したことなどから、不良が見込まれます。

被害は、早期栽培と同様に日照不足による登熟への影響やいもち病の発生などから、総じてやや多いと見込まれます。

これらの結果、10a当たり予想収量は419kg、作況指数は「97」のやや不良が見込まれます。

3 予想収穫量（主食用）

主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は5万2,700tが見込まれます。

表1 作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量

	作付面積(青刈り面積を含む。)			10 a 当たり 予想収量 (②)	参考		
	実数 (①)	前年産との比較			主食用作付 見込面積 (③)	予想収穫量 (主食用) (④ = ③ × ②)	
		対差	対比				
	ha 13,100	ha △ 200	% 98	kg 443	ha 11,900	t 52,700	
高 知 県							
作 期 別							
早期栽培	7,560	△ 200	97	462	
普通栽培	5,580	60	101	419	
作柄表示地帯別							
中 東 部	7,550	△ 60	99	462	
西 部	5,580	△ 100	98	415	

注：1 10 a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の数量です。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積を除いた面積(見込み)です。

3 作期別の主食用作付見込面積及び予想収穫量(主食用)は、作期別に備蓄米、加工用米及び新規需要米等の面積を把握していないため、「…」で示しています。

表2 作柄概況（9月15日現在）

区 分	平 年 比 較			
	穗数の 多 少	1 穗当た りもみ数 の 多 少	全もみ数 の多少	登熟の 良 否
早期栽培	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良
中 東 部	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良
西 部	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや不良
普通栽培	やや少ない	多 い	多 い	不 良
中 東 部	平年並み	多 い	多 い	不 良
西 部	少 な い	多 い	やや多い	不 良

表3 出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）

区 分	出 穗 期					刈取済面積割合	
	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期 の比較			
				対平年	対前年		
	月 日	月 日	月 日			%	
早期栽培	6.25	7. 1	7.12	7日早	5日早	100	
中 東 部	6.23	6.30	7.11	8日早	5日早	100	
西 部	6.27	7. 2	7.13	6日早	4日早	100	
普通栽培	8.11	8.19	8.28	1日早	2日早	1	
中 東 部	8.12	8.19	8.28	1日早	1日早	1	
西 部	8.10	8.18	8.27	2日早	3日早	1	

注：出穂期の始期とは出穂済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日です。

表4 10a当たり予想収量及び作況指数（9月15日現在）

区分	10a当たり 予想収量 ①	(参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別		
		10a当たり 予想収量 ②	10a当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③
		kg	kg	kg
高知県	443	439	456	96
作期別				
早期栽培	462	459	478	96
普通栽培	419	414	426	97
作柄表示地帯別				
中東部	462	459	475	97
西部	415	410	430	95

注：1 10a当たり予想収量①は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の数量です。

2 農家等が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり予想収量②、10a当たり平年収量③及び作況指数④については、四国地域において農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅(1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

○累年データ

水稻の年次別推移

区分	作付面積 (青刈り面積を含む。)	10a当たり 収量		収穫量 (子実用)	10a当たり 平年収量	作況数	参考	
		子実用	ha	ha	kg	t	kg	ha
高知県 平成17年産	13,900	13,900	471	65,500	458	103
18	13,900	13,900	429	59,600	459	93
19	13,800	13,800	450	62,100	459	98
20	13,600	13,600	493	67,000	459	107	13,600	67,000
21	13,600	13,500	470	63,500	459	102	13,500	63,500
22	13,500	13,100	448	58,700	459	98	13,100	58,700
23	13,500	12,900	459	59,200	460	100	12,900	59,200
24	13,400	12,900	449	57,900	460	98	12,800	57,500
25	13,300	13,000	449	58,400	460	98	12,900	57,900
26	13,300	12,700	438	55,600	460	95	12,700	55,600
早期栽培 平成17年産	8,290	8,290	491	40,700	476	103
18	8,270	8,270	446	36,900	478	93
19	8,210	8,210	456	37,400	478	95
20	8,030	8,030	509	40,900	478	106
21	8,030	8,020	491	39,400	478	103
22	7,950	7,690	468	36,000	478	98
23	7,930	7,560	466	35,200	481	97
24	7,910	7,550	469	35,400	481	98
25	7,810	7,650	473	36,200	481	98
26	7,760	7,400	470	34,800	481	98
普通栽培 平成17年産	5,640	5,640	441	24,900	432	102
18	5,640	5,640	404	22,800	432	94
19	5,570	5,570	441	24,600	432	102
20	5,560	5,560	471	26,200	432	109
21	5,550	5,520	439	24,200	432	102
22	5,580	5,450	420	22,900	432	97
23	5,560	5,340	448	23,900	430	104
24	5,540	5,310	419	22,200	430	97
25	5,530	5,360	414	22,200	430	96
26	5,520	5,330	393	20,900	430	91

注：1 作付面積(子実用)とは、青刈り面積(飼料用米等を含む。)を除いた面積です。

2 主食用作付面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積を除いた面積です。

3 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示しています。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稻作付面積調査及び水稻作柄概況調査として実施し、水稻の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の対象

- (1) 調査は、全国の各都道府県を対象に行ってています。
- (2) 早期栽培とは、主に台風による被害を避けるため8月中旬頃までに刈取りがおおむね終了する栽培方法をいいます。それ以外のものを普通栽培としています。
- (3) 高知県の作柄表示地帯の区分は下記のとおりです。

作柄表示地帯	該 当 市 町 村
中 東 部	高知市、室戸市、安芸市、南国市、土佐市、香南市、香美市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村 馬路村、芸西村、本山町、大豊町、土佐町、大川村、いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村
西 部	須崎市、宿毛市、土佐清水市、四万十市、中土佐町、梼原町、津野町、四万十町、大月町、三原村、黒潮町

3 調査対象数

- (1) 作付面積調査
標本単位区：717単位区 巡回・見積り：34市町村
- (2) 作柄概況調査
作況標本筆：170筆（うち早期98筆） 作況基準筆：7筆（うち早期4筆）
巡回・見積り：34市町村

4 調査事項

水稻の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期日

- (1) 作付面積調査：7月15日現在
- (2) 作柄概況調査：9月15日現在

6 調査方法

- (1) 作付面積調査
調査は、標本単位区に対する職員又は統計調査員による実測調査及び職員による巡回・見積りにより行いました。
- (2) 作柄概況調査
調査は、職員又は統計調査員による、作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査並びに巡回・見積りにより行いました。

7 集計方法

- (1) 作付面積調査
対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめています。
- (2) 作柄概況調査
調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、巡回・見積りにより補完して取りまとめています。

8 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稻、わら専用稻等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。
なお、水稻作付面積の区分は、次のとおりです。

統 計 区 分		内 訳
水稻作付面積	子実用	主食用米、備蓄米、加工用米、米粉用米等
	青刈り用	飼料用米、バイオ燃料用米、WCS用稻、わら専用稻等

- (2) 「穂数の多少」とは、1m²当たりに出穗した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1m²当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
- (6) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1m²当たり穂数等）の平年値との比較です。

多 少 (良 否)	少 ない (不良)	や や少 ない (や や不良)	平 年並 み	や や多 い (や や良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (7) 作況指指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。

なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産からは、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（四国は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出しています。

- (8) 10a当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

9 利用上の注意

- (1) 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

原 数	7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）	3桁	2桁	1桁	四捨五入しない	
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234
	四捨五入した後（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230

- (2) 表中に用いた記号は以下のとおりです。

「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
「△」：負数又は減少したもの

10 その他

- (1) この資料のうち作付面積の数値は概数値です。
- (2) 9月15日現在の作柄は、刈取りが可能なほ場では刈取り実測となります。刈取りできないほ場では、株数、穂数、もみ数及び登熟状況のうち、計測可能なものを実測しました。
また、調査できない収量構成要素は、過去の調査結果と調査時点までの気象データ等により推定し、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行いました。したがって、調査日以降の気象条件により作柄は変動することがあります。

【ホームページ掲載案内】

各種農林水産統計調査結果は、中国四国農政局ホームページの「統計情報」で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/chushi/info/index.html> 】

お問合せ先

◎ 本統計調査結果について
連絡先：中国四国農政局高知支局 統計チーム
電話：088(824)7900（代表）